

がん検診のご案内



神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-5-31 シルバープラザビル 2 階

一般社団法人 日本健康倶楽部 横浜支部

お電話でのお問い合わせ先：045-303-9622

がん検診のご案内

(施設がん検診・集団がん検診)

がん検診は各項目年度に1回受診することが推奨されます。日本健康倶楽部横浜支部では、診療所での施設がん検診、検診バスでの集団がん検診を提供しています。毎年のがん検診を習慣にしましょう！

1. がん検診項目

検診項目	検査内容
肺がん	胸部X線検査
	喀痰細胞診
胃がん	胃部X線検査（バリウム）
大腸がん	検便（2日法）
乳がん	超音波検査
	マンモグラフィ
子宮がん（頸部）*	細胞診（自己採取もしくは医師による内診）
各種がん	血液検査（腫瘍マーカー）

*子宮頸がん内診は施設のみ実施しています。子宮体がん検診は取り扱っていません。

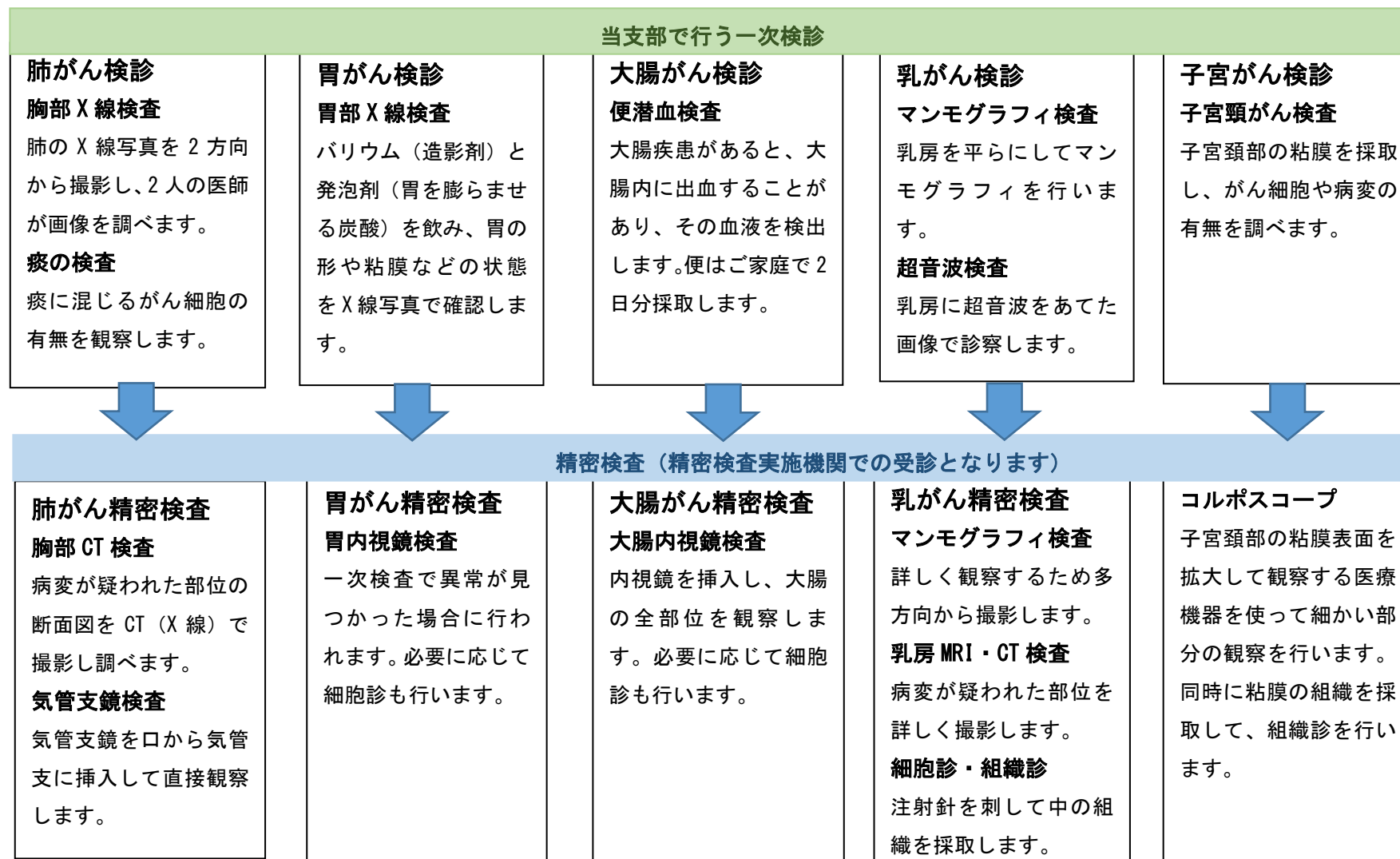
・がん検診は、症状のない方のための検査です。何らかの自覚症状のある方には、検診ではなく症状に応じた診断の為に適切な検査や治療が必要になります。**症状のある場合は、がん検診を受けるのではなく、必ず医療機関を受診して下さい。**

・病気があっても、症状が出にくいことがあります。**結果が「要精密検査」なら、自己判断はせず、必ず精密検査を受けてください。**

2. 神奈川県のがん検診に関するデータ（e-Stat 政府統計ポータルより）

平成 28 年度 のがん検診 実績	受診者	精密検査			受診者全体の がんの発見率
		要精密検査率	受診率	精密検査受診者 のがん発見率	
肺がん	4,208,687	3.66%	76.62%	2.51%	0.09%
胃がん	87,487	10.08%	75.28%	1.45%	0.15%
大腸がん	283,060	9.33%	63.56%	3.51%	0.33%
乳がん	156,157	7.85%	88.02%	4.88%	0.38%
子宮頸がん	257,844	2.53%	73.60%	1.51%	0.04%

3. 検査内容



4. 腫瘍マーカー（血液検査）

疾患別 陽性率	検査項目					
	AFP	CEA	CA19-9	CA15-3	CA125	PSA
肺がん		60	30	20	55	
食道がん		80	20			
胃がん		75	30	10	30	
結腸/直腸がん		65	10	10	30	
肝がん	70	55	30		40	
胆嚢胆管がん			75		40	
膵がん		70	80		40	
乳がん		45		85		
子宮がん			15	20	40	
卵巣がん				40	80	
前立腺がん						79
がん以外で数値が上昇する疾患	肝硬変 慢性/急性肝炎 乳児肝炎 妊娠後期	肝硬変 炎症性疾患 消化器疾患 長期喫煙	胆石症 胆管炎 膵炎 糖尿病	乳腺良性疾患	子宮内膜症 腹膜炎 漿膜炎	前立腺肥大症

・・・特に有用性があります

※腫瘍マーカーは数値が高いからといって、必ずしもがんであるとは限りません。また早期がんの場合は数値が上がらないこともあり、早期発見につながらない場合もあります。定期的に検査をして、前回の値と比較することが必要です。あくまでもスクリーニング検査であることをご了承下さい。

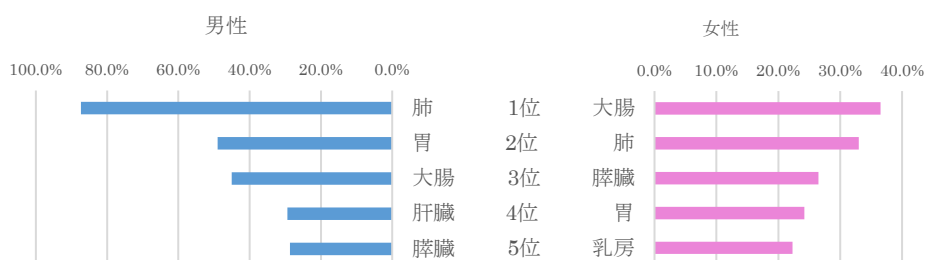
5. がん検診の目的

がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減らすことです。がんが検診で見つかった場合と、自覚症状が出てから見つかった場合とでは、がんが見つかったから5年後の生存率が大きく異なるため、がん検診はがん治療の成果のために有効です。

2017年の部位別がん死亡数の順位

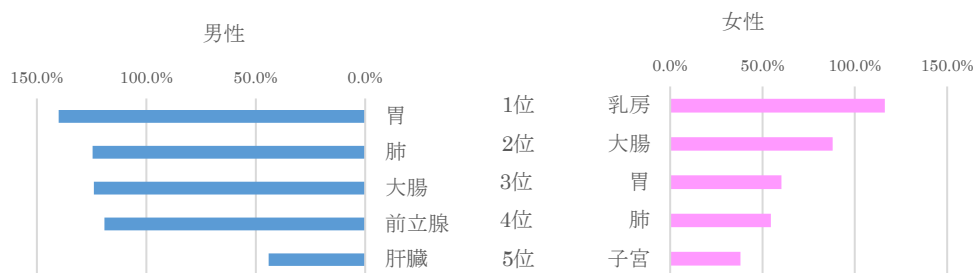
*()内は人口10万人対

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺 (87.4%)	胃 (49.0%)	大腸 (45.0%)	肝臓 (29.4%)	膵臓 (28.7%)
女性	大腸 (36.5%)	肺 (33.0%)	膵臓 (26.5%)	胃 (24.2%)	乳房 (22.3%)
男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓



2014年の部位別がん罹患数の順位 (がんになった人) *()内は人口10万人対

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	胃 (140.1%)	肺 (124.5%)	大腸 (124.0%)	前立腺 (119.2%)	肝臓 (44.1%)
女性	乳房 (116.3%)	大腸 (88.0%)	胃 (60.2%)	肺 (54.5%)	子宮 (38.0%)
男女計	大腸	胃	肺	乳房	前立腺

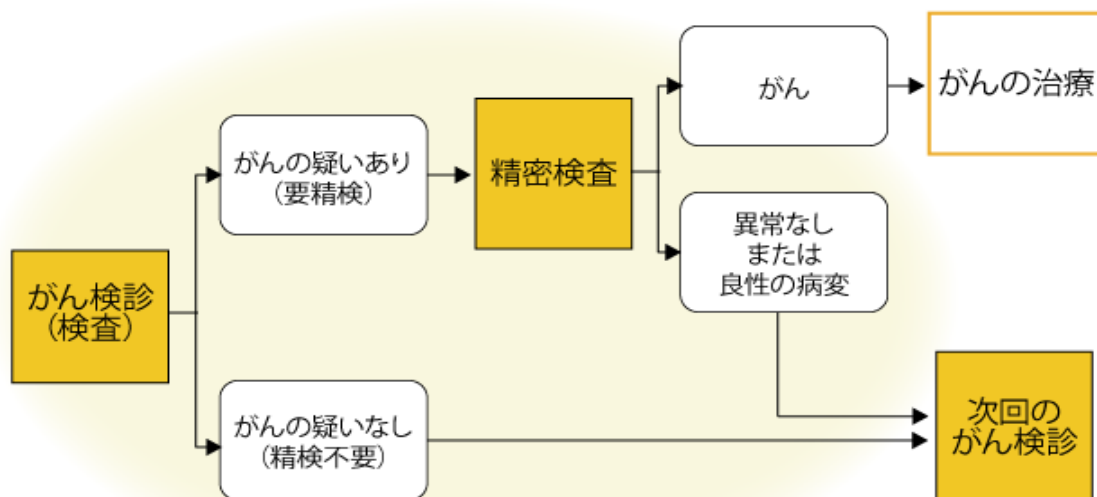


(出典：国立がん研究センター)

6. がん検診で要精密検査と判定された方へ

「要精密検査」と判定されても、精密検査の結果「異常なし」となる場合も多く、万一がんが発見されても自覚症状のない早期に発見、治療が出来れば治癒率が高まります。また、早期であるほど治療にかかる費用や体への負担も少なくてすみます。早期発見・早期治療のためにも必ず精密検査を受けましょう。

がん検診の流れ



(国立がん研究センターHP より抜粋)